



学力アップだより

家族と音読
してみよう！

青柳小学校 令和3年3月2日 第3号



音読のススメ

～音読ができなければ黙読もできないんです。～

音読をする必要なんてあるのでしょうか？今回は声を出さずに読んでも読めていけばいいのに、なんで小学校は音読の宿題があるのでしょうかというお話です。

○なんで、音読の宿題があるの？

東京大学の高橋麻衣子氏は『人はなぜ音読をするのか—読み能力の発達における音読の役割—』という論文の中で「就学前の児童は話し言葉のみを使用しており、書き言葉の理解能力を習得させるためには、音声情報を伴う音読による指導が効果的だと考えられる。」としています。人はいきなり黙読がすらすらできるわけではなく、音読ができるようになってから黙読が上達していくのですね。教科書の文章やテストの問題は書き言葉ですから、黙読ができない人は教科書やテストの文章を理解するのは難しいということになります。ですから、まずは音読の練習をしているというわけです。



○では、中学校でもやるの？

中学校では音読の宿題はあまり聞きません。

理由としては二つあります。一つ目は黙読が上達すれば黙読の方が早く文章を理解することができるようになるからです。もう一つは、音読の練習は小学校で十分積んできているので、読む力は充分身に付けているというのが前提として考えられているからです。

○ところで、いちばんごまかしやすい宿題って？

それは音読ですよ。

音読したことを誰かに聞いてもらわなければ、やったと言い張ればごまかすことができます。でも、コツコツとごまかし続けていたら、こんなに大切な読む力が身に付かないということですよ。宿題をやらなかったことをうまくごまかせたとしても、自分の読む力はごまかすことができません。

○音読のチェックはどうすれば？

音読は小学生にとってとても大切であることがお分かりいただけたと思います。ですから、ぜひお子さんの音読の宿題は毎日おうちの方に聞いていただきたいと思います。

音読チェックをするには、国語、社会、理科などの教科書を「予習」として音読してみることです。読み方がたどたどしかったり、リズムやイントネーションがおかしかったり、読みミス・二度読み・戻り読みが多い場合は、「文章がスラスラと正確に読めること」を優先して練習してみましょう。

